

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

| | |
|-------------|--|
| NITS・教職大学院等 | 実施機関名・連携機関名 鹿児島大学教職大学院・熊本大学教職大学院 |
| コラボ研修プログラム | 事業名： NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業 |
| 支援事業報告書 | 研修等名： 【NITS・南九州プラットフォーム(鹿児島大学・熊本大学)コラボ研修】 ミドルリーダーマネジメント能力育成プログラム |
| | 開催日時：令和5年12月23日(土)～12月25日(月) 3日間終日 開催場所：鹿児島大学(鹿児島県鹿児島市郡元1丁目20番-6号) 参加人数(総数)と属性：(54人) 教職大学院生20人、教育関係者25人、大学教員9人 |

内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

12月23日(土)

【指導講話】「鹿児島県の公立学校の現状と課題」 鹿児島県教育委員会 教育次長 黒木 誠 氏

- 離島小規模校が学校数の多くの割合を占める鹿児島県の公立学校を概観するとともに、教育の機会確保(不登校児童生徒への対応)、夜間中学の設置、特別支援教育の充実をはじめとする県の教育課題への対応について行政としての施策や教育実践についての紹介がなされた。

【指導講話】「かごしま県教員等育成指標の活用と今後の研修の在り方」 県総合教育センター 小野修 氏

- 育成指標の改訂の背景に触れながら、「新たな教師の学び」についてミドルリーダーに求められる資質という観点から説明があり、今後の教員研修の在り方について方向性が示された。

【講義】「学校のビジョンと戦略」 千葉大学 名誉教授 天笠 茂 氏

- 本研修の基調講演的な講座として、学校における共通ビジョンの設定について基本的な考え方を示していただいた。学校経営実践をビジョン・戦略・戦術の三層で整理し校長と教職員が一体的に推進していく必要性について説明がなされた。

【講義】「ミドルリーダーシップ」 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 氏

- 学校組織を活性化するための教職員間・教師子ども間の心理的安全性を基盤に、ミドルリーダーの役割の説明と実際の事例を紹介を通して、管理職と連携した学校経営参画について議論された。

12月24日(日)

【講義】「教職員のメンタルヘルスマネジメント」 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 河村 茂雄 氏

- 教職員それぞれの自主性・向上性及び教職員間の同僚性・協働性を発揮する際に、教職員のメンタルヘルスは、学校組織の状態を整える上で極めて重要である。このことから、二次支援の必要な教職員の特徴と協働活動を通しての支援の在り方について議論がなされた。

【講義】「学校教育における危機管理」 鳴門教育大学大学院 特命教授 阪根 健二 氏

- 児童生徒に好ましくない影響を及ぼす事態や学校の信頼性を損なう事態を対象とした危機に対応するための確な危機予測と発生時のダメージコントロールの重要性について説明がなされ、管理職、ミドルリーダー、担当教員のそれぞれに役割について具体例を挙げながら議論が展開された。

【講義】「学習のユニバーサルデザイン・段階的対応・合理的配慮」新潟大学大学院 教授 長澤正樹 氏

- 通常の学級における特別支援教育を主たる題材として、発達障害特性に対する対応を三層に分類し、教職員、専門家対応、児童生徒の指導形態を含む合理的配慮及び職員体制、教育機関・医療機関との連携について解説が行われた。

【事例発表】「特色ある教育活動」

- 帖佐中学校長 辻 慎一郎 氏「企業と連携した探究学習」
総合的な学習の時間等において、生徒が自らの生き方と結びつけ考えるキャリア教育が紹介された。
- 鹿屋中学校長 森 拓郎 氏「生徒と共に取り組む授業改善と学力向上」
生徒が授業や自主学習を参観し、教員にコメントするなど、主体性を育む取組が紹介された。
- 伊津部小学校長 中島 清昌 氏「離島における教育活動」
離島の伝統芸能や地域人材を生かした教育活動について紹介がなされた。

12月25日(月)

【講義】「深い学びを実現するカリキュラムマネジメント」 國學院大学 教授 田村 学 氏

- 学習指導要領に示される育成を目指す資質・能力の三つの柱を軸に、「言語活動の充実」や「深い学び」について理解を深めると共に、学校としていかに共通ビジョンとして集約するかについて議論がなされた。
- 【講義】「プログラミング教育の具体的実践」 広島工業大学 教授 安藤 明伸 氏
- Society5.0 と表現される社会の到来において、情報活用能力としてのプログラミング及びプログラミングの重要性について、ミニ演習を通して受講者が理解を深めた。
- 【講義】「全教育活動における道徳教育」 国立教育政策研究 教育課程調査官 堀田 竜次 氏
- 道徳教育の課題と特別の教科道徳の推進について、全体計画、全体計画別葉、年間指導計画作成のポイントの解説がなされ「考え、議論する道徳」の理解が深められた。
- 【講義】「校内研修を通じた組織開発」 国立教育政策研究所 総括研究官千々布 敏弥 氏
- 組織開発には教師が自らの行動と思考様式に影響を与える価値の一定の体系（信念）を変容させる必要があり、実践の背景にある思考を把握しそれを見直す批判的リフレクションについて参加者との交流を交えながら議論が展開された。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

全講座を通じた参加者アンケート（12 講義のべ 234 回答から）

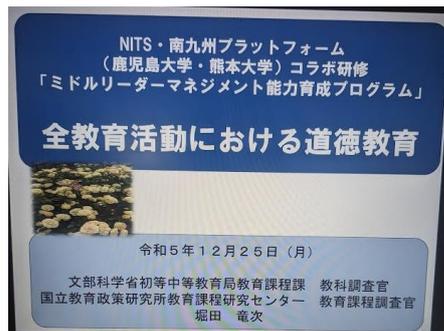
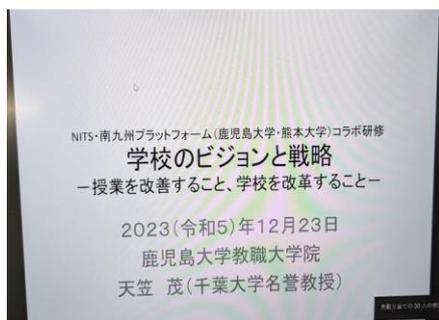
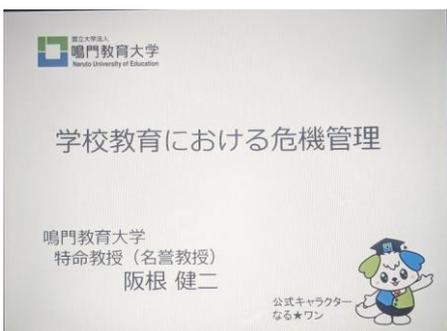
とても役立つ(67.2%) 少し役立つ(25.9%) どちらでもない(5.7%) あまり役立つ(1.2%)

- 大学院での学びと重なる部分や疑問に思っていた点について解消できる内容でした。
- これからの学校組織づくりの際、職員が孤立しないネットワークづくりにつなげていきたいと思いました。
- 周りがついていきたいという人間性をもった人物が先頭に立つことが組織開発の肝だと思いました。
- これまでの実践を振り返る機会となりました。協同ビジョンを教育課程に効果的に取り入れたいです。
- 教職員の成長は、教職員集団の中で育まれることが理解できた。

アイデアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- 講座・事例発表等の選定を工夫し、ミドルリーダーマネジメント能力育成プログラムとして、これからのミドルリーダーに参考なるようにした。
- NITS 動画教材を担当されている著名な先生方を講師として招き、ミドルリーダーとしての視点や理論と実践の往還の重要性について再認識できるよう依頼した。
- 教職大学院だけでなく鹿児島県・熊本県の教育関係者にも周知し、地域連携を図った。
- オンラインによるプログラムとし、遠隔からの参加が容易となる他、講師への質問や意見交換等が円滑に進められるようにした。

【講座のプレゼンテーションの例】



【オンラインによる講義の様子】

【講師からの質問に答える教職大学院生①】

